国民経済計算における医療の質調整アウトプット計測

藤澤　美恵子
Mieko Fujisawa

日本をはじめとする先進国における近年の国民医療費の伸びは大きく、今後も増加が見込まれることから医療報酬制度を巡る議論は財政の困難と相まって国民の関心が高い分野となっている。GDP にしめる医療分野の産出は、投入費用が大きい分大きくなっているが、国民皆保険制度を持つ日本では保健医療に限定され、かつ投入費用を産出とする従来の慣習的な国民経済計算（SNA）方法によっている。

国連の 93SNA では、従来型の計算方法から脱却し医療の生産性を把握した付加価値の把握が望ましいと推奨しており、93SNA 以降は医療の生産性に関する研究が進んでいる。93SNA が目指しているものは、財政負担が大きくかつ GDP に占める割合も大きい医療の正確な生産性の把握である。医療技術の向上に伴い医療の生産性は向上しているはずであり、国民の平均寿命の更新も医療技術や予防医学におっているはずであるが、現状では正確に把握できていない。これらを正確に把握することにより、医療の社会保障としての意義や効果を計測できるばかりか、GDP の正確な算出へと導くことが可能となる。

医療の生産性に関する研究は、医療現場の活動の生産性を計測する研究と SNA の概念として医療を定義した上での生産性の計測をする研究に二分される。さらに、SNA の医療の生産性を求める過程でインプット計測とアウトプット計測に関する研究がある。本研究では、SNA のアウトプット計測に関する先行実施例や先行研究を参考に、日本における医療の質調整アウトプット計測に関して試行し考察する。

本研究の目的は、医療の質調整アウトプット計測の可能性を検証し、実現に向けたデータや推計方法に関する提言をおこない、医療の質調整アウトプット計測の実施にあたっての検討材料を提供することである。

まず質の調整なしに試みた患者数を利用した CWOI 分析の結果、解釈が難しい結果となり、改めて質の調整の重要性が示唆された。データ制約がある現状下で対応できる癌患者の生存率を利用して試みた分析では、いくつかの興味深い結果がえられた。

本論文の構成は、2 章にて先行研究を整理し、諸外国の医療のアウトプット計測の現状をまとめる。3 章では、日本の医療制度を概観し、現行の SNA 推計法を確認する。4 章は、患者数を利用した CWOI 分析による分析の結果を踏まえ、医療制度の特性と質の調整の必要性に関して考察する。5 章は、医療の質に関する整理と考察を行った後、分析が可能な癌患者の 5 年生存率を治療の質とみなし、Quality-adjusted CWOI 分析をおこなう。この結果を踏まえ、日本における医療の質調整アウトプット計測を実現するためのデータのあり方や収集方法などを考察する。6 章は、本研究で得られた知見の整理と医療の質調整アウトプット計測を実現するための要件を整理する。